



もがみ

平成24年
2012
No.732

3月

恩師や学び舎に別れを告げ、新たな一歩を踏み出します。新庄北高最上校卒業式（13ページに関連記事）

■ 今月の主な内容

- 町の財政状況（財務諸表） P.2
- 自然環境現況調査会 P.6
- まちの話題 P.8
- ふるさと日記 P.12
- もっと元気になる講座 P.14
- 平成24年度検診日程 P.18

※次回の年金相談日は4月10日（火）です。

消したはず 決めつけないでもう一度

春の火災予防運動

4月9日（月）から22日（日）までの14日間

16日から22日までの間、朝・夕にサイレンを鳴らし、広報します

東日本大震災から学ぶ防災講演会

仙台市福住町町内会震災記

2月29日、防災講演会が中央公民館結婚式場で行われ、町民60名が参加しました。

講師は、仙台市宮城野区福住町町内会長兼自主防災会長の菅原康雄氏。

講演で菅原さんは、「行政に頼らない防災組織づくりを進めること、また自分が助かる術を真摯に検証する必要があると思う。止むことのない災害に強い危機管理を携え、たつたひとつの大切な命を守り続けたいものである」と話してくれました。



▲「日頃の訓練や危機管理が、今回の震災時に役にたった」と話す菅原さん

提言書を町に提出

町議会、町民の声をまとめる



3月6日、町議会の菅俊郎議長と議員の方々が、「町民と語る会」で出された町民の声を受けて作成した提言書を高橋重美町長に提出しました。

この提言書は、町議会が昨年12月に開催した町民と語る会で町民のみなさんから出た意見などをまとめたもの。高橋町長は、「町民のみなさんの意見として真摯に受け止めます。提言書の内容を検証し、今後のまちづくりを生かしていきたい」と述べました。

新たな品目「やまがた地鶏」に挑戦

菅昭義さん(やまがた地鶏もがみ研究会最上町部会代表)

菅昭義さん(前森3区)は、「やまがた地鶏ってどういうものだろう。自分にも飼育できるのだろうか」と思い、昨年の夏から興味をもって調べたそうです。いろいろ調べた結果、「取り組んでいる人が少ないことや売り先を開拓するのは自分の力で」と、自分の努力が結果につながると見込んで、今年の1月から飼育を始めました。

1月末に取材した際、菅さんは「今回の飼育羽数は、52羽。ヒナは寒さに弱く、夏場でも暖がなければならぬ」と聞いた。それならばと温泉の熱が利用できる赤倉で飼育を始めた」と教えてくれました。



3月9日、あの鶏たちはどれくらい成長した



▲やまがた地鶏を飼育している菅さんと1月に取材した頃と比べ倍以上に成長したやまがた地鶏の雄

のかと再度取材にうかがいました。小屋に足を踏み入れると餌の取り合いの影響か、一番大きい鶏と一番小さな鶏の体格に差はあるものの52羽すべてが元気に育っていました。菅さんは、「出荷の予定は、4月の下旬くらい。1kgあたり3000円で販売したい。町内の飲食店の経営者たちも興味を示し、先日、肉を買って試食会を開いた。歯ごたえがあり、肉汁もおいしい。みなさんに好評で、あらためて手応えを感じた」と話してくれました。

【やまがた地鶏は、山形県が県独自の味の良い地鶏を開発しようと取り組んできた鶏です。父鶏に遊佐町の赤笹シャモの雄と名古屋種の雌の交雑種、母鶏に横斑プリマスロック種の三元交配。肉色、特にモモ肉が赤みを帯びており、見た目もきれいで、何より鶏臭さのない上品な味わいがあります。約140日じっくりと育てて熟成させた肉は、うま味成分のイノシン酸とグルタミン酸の比率が、一般に出回っているブロイラーに比べ10%ほど多いのが特徴です。】(山形県ホームページ参照)